■ 2021.5.25　No233

脱原発情報

発行　双葉地方原発反対同盟　　責任者　石丸小四郎
970 － 8026　いわき市平童子町３－６　Ⅱ 903
TEL・FAX　0246-25-7737　携帯　090-4477-1641
E -mil：ishimaru19430106@gmail. com　ブログ「石丸日記」

判断を誤る内部被ばく無視！ 県民健康調査　事故後10年目報告

5 月 17 日（月）に第 41 回「県民健康調査」検討委員会が開催され 300 ページを超える資料が提出された。その中の「基本調査」は事故直後から 4 ヶ月間の県民の動向を調査し、被災県民がどれほど被ばくしたかを明らかにし健康管理における基礎資料とするものであったのだが・・・

基本調査の報告はわずか 1 ページ半のｽﾍﾟｰｽで**外部被ばく線量のみの推計**であると断ったうえで、回答率は 200 万県民の 27.7 %、被ばく量は 2mSv 未満が全体の 93.8 %、5mSv 未満が 99.8 %、最大値は 25mSv、平均値は 0.8mSv、中央値は 0.6mSv というものであった。

これを「健康管理における基礎資料」とするというのであるから仰天する。

何故なら被ばくで最も心配されたのは「甲状腺被ばく問題」であり甲状腺被ばくは飲食や呼吸などにより甲状腺に放射性ヨウ素がどれだけ取り込まれたかが重要で、県の「緊急被ばく医療活動マニュアル」にも記載され、スクリーニング検査の重要な目的の一つでもある。この内部被ばくを除外した線量推計にどれだけの意味があるというのか。全くの欺瞞と言わざるを得ない。

3 月 17、18 日いずれかに郡山市の避難所のスクリーニング検査で **11 歳児が 100mSv 程度の被ばくしていたことが報告され、後に新聞報道された。（既報 229 号）**しかもこれはレアケースではなく県内各地の避難所で実施されたスクリーニングでも「1 歳児甲状腺等価線量 100mSv= 13,000 cpm」(注1) を超える者が多数のため除染対象基準値を 3 月 13 日以降は GM サーベイメータ振り切れの値である 10 万 cpm に引き上げたのである。**（既報 231 号）**そのため 13,000　cpm 以上 10 万 cpm 未満の除染対象であった多数の避難民は体表面の拭き取りもされず「大丈夫です」ということにされたのである。3 月 13 日～ 14 日は基準値超えの全員、15 日～ 17 日には約半数の方のデータは記録されなかった。**それでも 10 万 cpm 越えの人は 102 人、13,000cpm ～ 10 万 cpm 未満の人は 901 人という数字が残っている。**

朝日新聞

線量低く遺伝的リスク小さい

被曝と健康

―調査開始から10年が経過した。

「原発事故が県民の健康に与えた影響の概要を、科学的エビデンスに基づいて明らかにできた。事故後4カ月間の外部被曝線量を推計する『基本調査』では46万人以上の線量を推計し、99・8%の人は5ミリシーベルト未満だった」

「〈専門家らでつくる〉県検討委員会で、統計的に健康影響が認められるレベルの被曝線量では

説明できる人材養成を

県立医大副学長 神谷研二さん

かみや・けんじ　1977年、広島大医学部卒。同大原爆放射線医科学研究所などを経て、2011年から県立医大副学長。16年から同大放射線医学県民健康管理センター長を兼務。専門は放射線発がんなど。

原発事故後の2011年6月に始まった「県民健康調査」は、福島県から委託された県立医大が担ってきた。何が明らかになり、どんな課題があるのか。神谷研二・副学長に聞いた。

（資料１）専門家がなぜ誤った判断を広める？県民を愚弄するな！

調査委員会が調査すべきはこの内部被ばくであり、少なからぬ避難民が「有意に健康被害が懸念される」レベルの被ばくを受けた可能性があり、一人ひとりの県民の行動記録から放射性粉塵の吸収量を推計し、外部被ばくと併せて健康被害の程度を推測することが本来の任務であったはずである。もし、基本調査で内部被ばくを考慮した推計となっておれば少なからぬ避難民が 100mSv を超える被ばくをした可能性があり、特に児童の被ばくは、これまで発表されているような誤った見解「被ばく線量は低く、甲状腺への影響は考えにくい」とはならなかったに違いない。委員会の中でも「基本調査」が誤解されないか懸念する声があった。その誤解が県民の健康を守る中核の医療機関、県立医大から発せられようとは･･･県民を愚弄するものと言わざるを得ない。**（文責　斉藤章一）**

ドキュメンタリー　まぼろしのひかり 原発と故郷の山

侵略戦争の惨禍と原発事故の現状！

今年２月、長野県 SBC 信越放送局の取材を受けた。その時は、半世紀の反原発の闘いの課題を話しただけだった。ところが送られてきたビデオ（資料２）には「～まぼろしのひかり～原発と故郷の山」のタイトルで、侵略戦争と長野県満蒙開拓団の悲劇を伝え、阿武隈山系に開拓農民として入植した人物が原発事故で２回目の避難をしなければならない現状を伝えていた。その秀逸さに驚き、是非伝えたい。

阿武隈山系、葛尾村にも戦後、開拓の集落があった。この山にも放射能が降り注ぎ、全村避難が続いていた。

長野県出身（資料３）の岩間政金さん（９５歳）はその思いについてこう語った。

「この悔しさは泣いても泣ききれるものではない！ふるさとを追われるのは、これで２度目だ」

長野県飯田市に生まれ育ち、戦争中に一家４人で海を渡った。11 歳の時だった。日本の傀儡（かいらい）国家満州への入植だった。

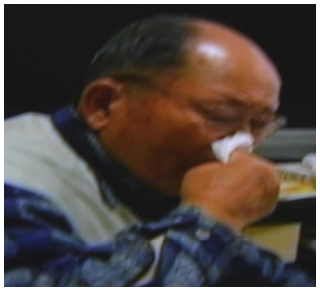
当時 20 年間で 500 万人目標で日本人が中国に渡ったと記録されている。（資料４）

政府は農業移民を国策として進め、満蒙開拓団と呼ばれた。それは中国への植民地支配とソ連国境の防衛が目的だった。一方、（資料５）のように開拓団を送り出す村には、多額の交付金が入った。

その額は村の年間予算に匹敵しているケースもあった。

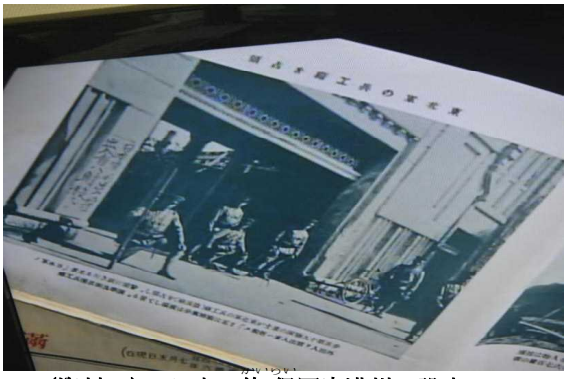
貧しさからの脱却！

（資料２）　まぼろしのひかり 原発と故郷の山

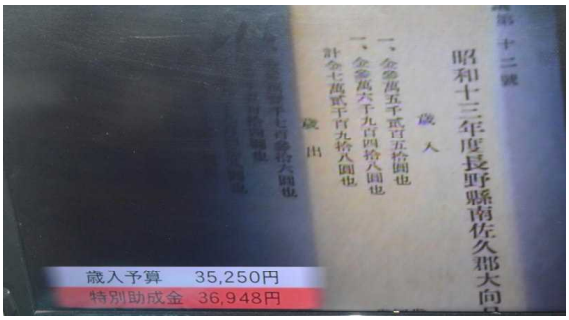


（資料３）岩間 政金さん

今野 義人さん



（資料４）　日本の傀儡（かいらい）国家満州の設立



（資料５）　村の年間予算を匹敵する金額

しかし、土地と言えば日本の公設企業が現地の住民から、ただ同然で買い上げたもので侵略の上に成り立つ“まぼろしの大地”そのものであった。

やがてソ連軍が満州へ進行。開拓団は軍に見捨てられ、戦場に置き去りにされる。

岩間さんは当時 19 歳、現地で召集され、ソ連軍との戦闘の後、捕虜から逃れ、山野を彷徨（さまよう）う。

食べ物もなく息絶える者、ソ連軍の銃弾や現地の住民の報復などに倒れていく者が多く、ふり返らずひたすら逃げ続けた。

「あんな辛いものはなかった！」と絞り出すように語る。　満州を逃げまどいようやく新京に着いたのが半年後だった。「良く生きて帰ったものだ…」と涙をぬぐう！

戦後引き揚げ、ようやくたどり着いたふるさとに自分たちの居場所はなかった。

そして東北の各地に開拓民として入り、掘っ建て小屋から生活が始まり、今に繋がっている。

浪江町（資料３）の今野義人さん（76 歳）は、取材記者

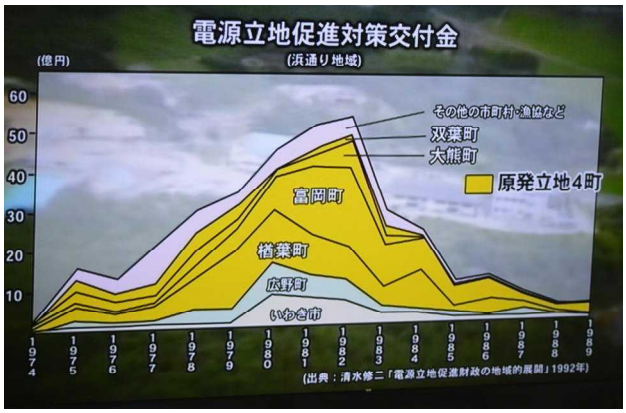
とともに、帰還困難区域の浪江町赤生木集落に一時帰宅するところから話は始まる。

一週間前の震度６強の地震が気になっていた。「このお墓は戦後入植した人たちのお墓だ」と指さす。85 世帯が暮らす集落では満州からの引き揚げ者が築いた集落が赤生木にもあった。

（資料６）　浪江町津島赤生木の集落

「筆舌に尽くしがたい苦難の末、ようやく築いた第二のふるさとも原発事故で追われてしまった人が多い。原発は安全だ…と言われ、それを信じて来たけれど、今は国と東電に対する不信感はぬぐい去ることはできない」と語る。

震災から４年後…始めたことがある。 赤生木の記録を本にして残すことだ…平安時代が起源といわれる集落の歴史を辿り、全世帯の記録を掲載、バラバラになった集落の人々の記録は全 600 頁に及んでいる。



（資料７）　電源三法給付金も1982年から急激低下…

今野さんを突き動かす出来事があった。避難した時の秋…集落全体を集めた会議がもたれた。その時、一人が「俺たちいつ戻れるんですか？」と聞いた。**そうしたら環境省か東電だったろうか“百年は無理だろうね”とこともなげに答えた！**

その「百年帰れない！」の言葉を聞いて、皆ビックリして、ざわめき、その後、皆…シーンんとしてしまったことがあった。

百年といったら、どういう数字なのか！「自分たちの地域が、培ってきた歴史や、すべてがなくなってしまうな！」と思った。“百年帰れないふるさと”をどう考えればいいのかである。

（資料８）　殺処分された 40 頭の牛…と悲しみ…

・1960 年以降、福島県奥会津地方の水力発電建設と 1970 年以降の双葉地方への原発と火力発電の建設の経過。

・第二原発４基の建設と東電の体質。

・（資料７）にある、原発所在４町の財政赤字と第一原発７・８号増設の経過。

・労働者被ばくにより胸部疾患や白血病の増加傾向が著しく、その闘いが取り上げられていた。

特に、**赤生木の 230 人だった住民が、この 10 年で 190 人なった。約 40 数名亡くなっている。**

「百年帰れない！」この言葉が重くのし掛かる。

入植後牛を飼っていた岩間さんは**「一番悲しかったのは生き物だなー！大切にしていた牛を殺処分した日のことを忘れようとしても決して忘れられない。**

40 頭もいたからなー寂しいなー！　原発事故が起きても家畜がいるから避難できない…警察署や役場が大勢来て『避難してくれろ』っていう。無視していたら、一週間後また来て『避難先から通って来てくれ！』という。だから福島市から２時間以上かけて１日おきに通った。しかし、毎日食べていた牛が２日に１度ではどんどん痩せて行く…。（資料８）のように殺処分してトラックに積んで、石灰をかけて山にブルで埋めた。いやー 惨めだったなー！　血と涙を流し育てた、この悲しさは誰にも分からん！」と涙をぬぐう。今野さん、岩間さんの述懐に胸が打たれる。改めて思う、原発事故の何たるかを…。

原子炉格納容器の水位低下と高線量 シールドプラグ問題を考える！

前号に続き「余震による格納容器水位低下」問題を取り上げた。特に、“臨界再発”が否定できないだけに見過ごすわには行かない。このところ余震が引きもきらない状態にあるからである。

（資料9）のように２月 13 日の震度６強の後、１・３号機の原子炉格納容器（ＰＣＶ）の水位と圧力が低下し続けている。

東電では「10 年前の 3.11 東日本大震災で出来た損傷が広がったためでは…」と説明している。

３号機については 6.3 ﾒｰﾄﾙあった水位が約 5.5 ﾒｰﾄﾙまで下がった。以降は横ばい状態で安定しているという。これは損傷部分よりも水位が低くなったためではないかとしている。

一方、１号機に関しては 1.9 ﾒｰﾄﾙあった水位が１ﾒｰﾄﾙまで下がり、水位の低下傾向が見られるため１時間あたり３ﾄﾝの注水を４ﾄﾝ増やすとしている。

これは、水位計が底部から 92 ｾﾝﾁの高さに設定されており、それを下回ると水位の監視が出来なくなるためだというのだ。

東電では「原子炉内の温度は約 35 ℃で安定しており、仮に注水が停止しても、制限温度と言われる 80 ℃に達するまでには約２週間かかる見込みで、時間的には余裕をもって対応できるとしている。

しかし、10 年経っても極めて不安定な状態にあることを印象付けている。

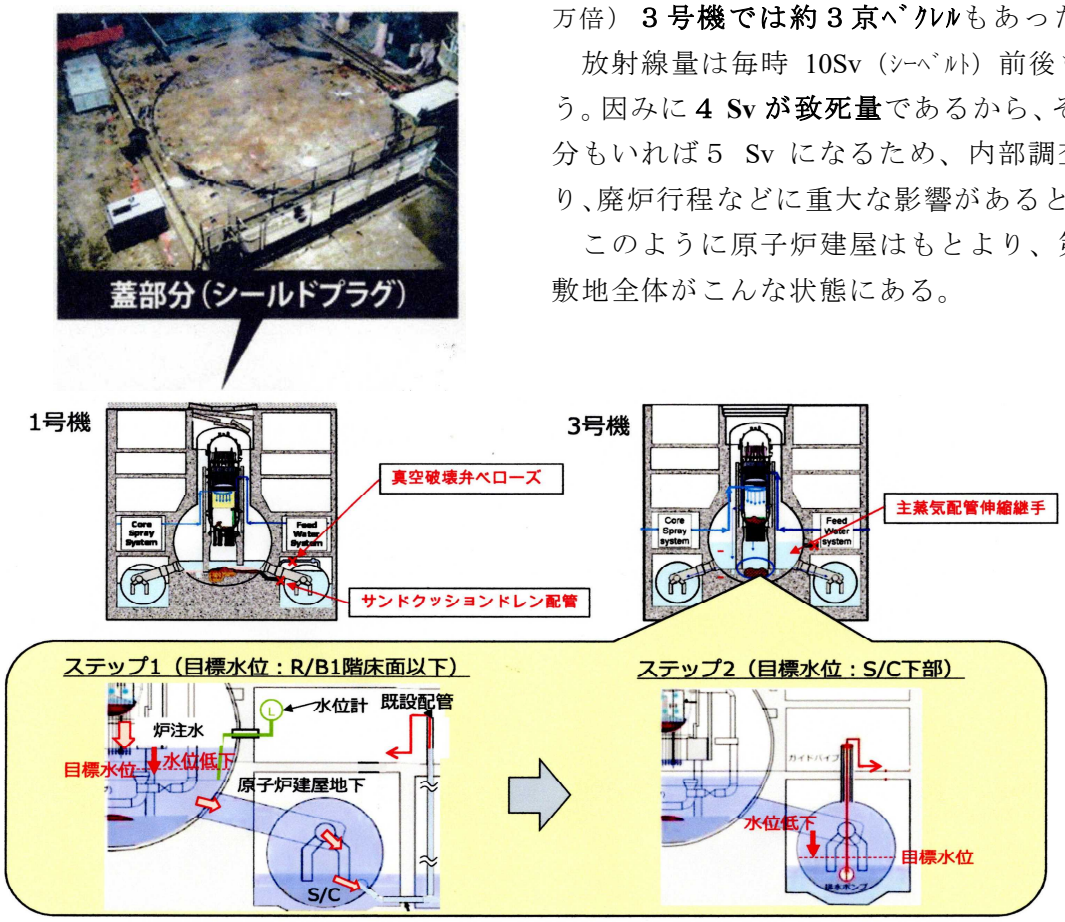
特に、問題なのは放射線量が高く、建屋内部に入れず、破損箇所も特定できない事である。

放射線量は如何ほどなのか？

原子力規制委員会の報告によると、図の左下部分の圧力容器の上部の「シールドプラグ」と呼ばれる円盤状の３枚重ねの蓋にセシウムが付着した部分は、１号機で**約２京～４京ﾍﾞｸﾚﾙ**（京は兆の１万倍）**３号機では約３京ﾍﾞｸﾚﾙ**もあったと言う。

放射線量は毎時 10Sv（ｼｰﾍﾞﾙﾄ）前後もあるという。因みに**４ Sv が致死量**であるから、その場に 30 分もいれば５ Sv になるため、内部調査はもとより、廃炉行程などに重大な影響があると見ている。

このように原子炉建屋はもとより、第一原発の敷地全体がこんな状態にある。



（資料9）　１～３号機の原子炉格納容器（ＰＣＶ）の水位低下と高線量シールドプラグ

第一原発敷地全体が放射性廃棄物の山・山・山

3月、「第一原発・物揚場排水路」で放射性物質濃度が1㍑当たり1,500ﾍﾞｸﾚﾙ／時を超え警報が鳴った。この問題、前号でも「第一原発の敷地コンテナ4,000基」と表現している。それどころではなかった。

（資料10）は様々な物質、コンテナとして敷地全体に広がっていることを示したものである。

その内容物の把握に時間を要するもの、及び確認が困難な容器は以下の通りである。

・保管方法の分類に当たりバウンダリ機能（容器・シートで養生）が必要な不燃物瓦礫類	（0.1 ～ 30mSv）	3,426 基
・バウンダリ機能が必要なもので比較的新しいもの。2017 年 12 月以降	（0.1 ～ 30mSv）	1,912 基
・「屋外集積」となっているがバウンダリ機能が必要。2017 年 12 月以前の古い容器	（0.1mSv ／以下）	585 基
・バウンダリ機能が必要でないもの	（0.1mSv ／以下）	79.546 基
合　　計		**85,469 基**

驚くことにその数は 85,469 基である。

これはバウンダリ機能がない屋外に置かれたものがほとんどだから、10 年間の間に地下に染みこんだり、海に流れ込んだりしたものがあるであろう。

それをサーベイ（調査・測量・測定）した結果、この物質は「原発施設の故障、その他、不測の事態で生ずる核燃料物質が管理区域内に漏洩した時の**防護に関する規則**に該当する」というのだ。

その物質は（資料11）にあるように敷地全体に及んでいる。

私たちは以前から「第一原発はどうにもならない事態に直面している！」と訴えて来た。

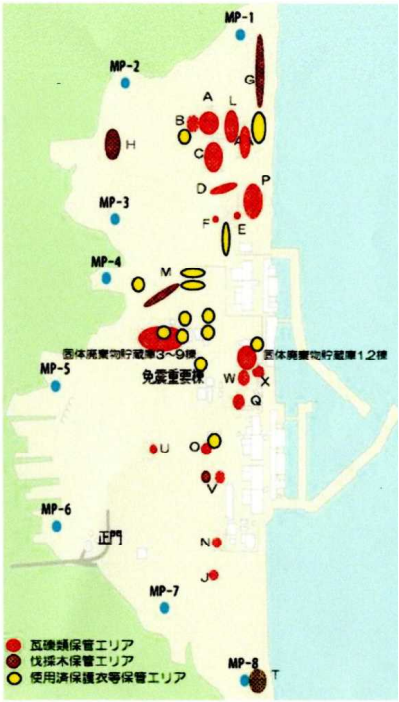
それは何故か？建屋、共用プール、乾式キャスクに貯蔵してある「使用済み燃料」12,851 基だけで**合計 6,700PBq（京ベクレル）**と気の遠くなるような量だ。こればかりではない！アルプス処理から生まれる、滞留水、スラッジ、吸着塔、前述したシールドプラグ、溶融核燃料デブリなど**合計 560PBq** だという。

その総合計は　**6,700PBq ＋ 560PBq ＝ 7,260PBq** ということになる。

この数字は原子力規制委員会が、第一原発の「中長期リスク（およそ 10 年度の姿）の低減目標マップ（2021 年.3 月版）」(注 2) として報告されたものである。

この莫大な数字を見て、どうするか？今…それが問われている！

（資料10）　　屋外集積　屋外容器　瓦礫　伐採木　使用済み保護具　など

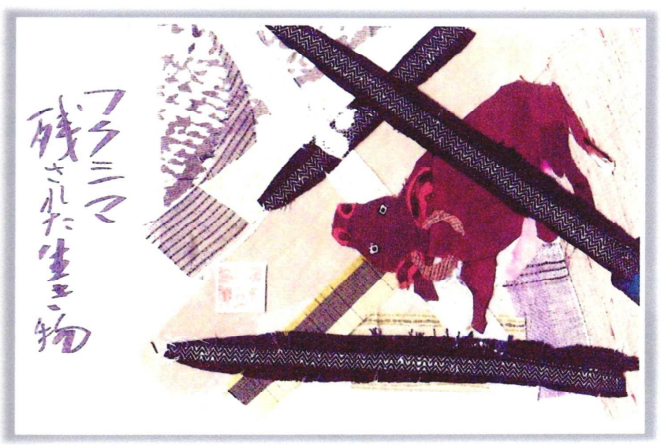


（資料11）　敷地全体に…

滋賀県に自主避難
青田恵子さん 自作の布絵と詩に込めた思いを…！

牛飼いじゃないけれど

安部首相
あなたの朝食は
バターつきのパンに温めたミルク？
東電の社員たち
あなた方の昼食は
社員食堂の牛丼？
そして安倍首相
あなたの晩ごはんは
ホテルでのステーキですか？
福島で安楽死させられた
二千頭余りの
牛の姿は見えましたか
牛の声は聞こえましたか
殺すのにしのびなく
野に放たれた牛たちは
放射能にまみれた草を食み
やがて仔をはらみ
つかの間の自由を謳歌した
・・・・かに見えた。



何たる不毛な作業
黒い巨体をクレーンで吊り上げては
巨大な穴に累々と積んでゆく
その作業員の服は真っ赤に染まり
はたして　ほんとうに安楽死だったのか
疑いをはさむ余地もない
最後の抵抗に傷つき
断末魔の叫びを天にとどろかせ
己が肉体を人間にささげることすらできず
殺された牛たち
フクシマの牛たち
ある牛飼いがポツリと言った
人間が牛の世話をしたんでねぇー。
人間が牛に世話になったんだ。
牛飼いじゃないけれど
私もそう思う
牛飼いじゃないけれど

出典　文献
・（資料１）朝日新聞 5/22・（資料２～８）ＳＢＣ信越放送局・（資料９～11）東京電力ＨＤ・（資料 12）詩、布絵、短歌、小さな窓辺から、青田恵子氏・（注 1）福島県はｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ基準を 100mSv=GM ｻｰﾍﾞｲﾒｰﾀで 13000cpm と定めていた・（注 2）第９０回特定原子力監視・評価検討会参考

編集後記　既報２～３頁に掲載した「まぼろしのひかり 原発事故と故郷」にお出になった岩間政金さんの葛尾村にある自宅にお邪魔した。葛尾の最深部、浪江町との境で、これほどの奥地に良く住んだものと…驚くしかなかった。しかし、その面差しは 95 歳の好々爺そのものであった。また再訪し、お話しを伺いたいと思った。